

(1) 審議事項

ウ がん診療連携拠点病院の新規指定について

- ① 新規指定の申請状況について
- ② 新規指定に係る国への推薦意見について

① 新規指定の申請状況について

拠点病院指定の必須要件（抜粋）

1 県協議会における役割

- 協議会運営への主体的な参加
- 協議会の方針に沿って医療圏におけるがん医療が適切に提供されるよう努めている

2 診療体制

（１）診療機能

- 集学的治療等の提供体制及び標準的治療等の提供
- 手術療法、放射線療法、薬物療法の提供体制の整備
- 緩和ケアの提供体制の整備
- 地域連携の推進体制の整備
- セカンドオピニオンに関する体制の整備
- それぞれの特性に応じた診療等の提供体制の整備

（２）診療従事者

- 専門的な知識及び技能を有する医師の配置（**専従の放射線治療に携わる常勤の医師・専任の放射線診断に携わる常勤の医師が１人ずつ**）
- 専門的な知識及び技能を有する医師以外の診療従事者の配置

（３）その他の環境整備等

- アピアランスに関する情報提供・相談に応じられる体制の整備

3 診療実績

- 院内がん登録数（500件以上）
- 悪性腫瘍の手術件数（400件以上）
- 薬物療法のべ患者数（1,000人以上）
- 放射線治療のべ患者数（200人以上）
- 緩和ケアチームの新規介入患者数（50人以上） ※（ ）：年間件数
- 当該医療圏に居住するがん患者の診療実績割合が18%以上

① 新規指定の申請状況について

拠点病院指定の必須要件（抜粋）

4 人材育成等

- 2 に掲げる診療体制を確保するために必要な人材の確保、育成、病院長による評価、国指針に基づく緩和ケアに関する研修の開催など

5 相談支援及び情報の収集提供

- がん相談支援センターの設置（相談員基礎研修（１）～（３）を修了した専従及び専任の相談支援に携わる者の配置） ・ 院内がん登録 ・ 情報提供、普及啓発
- がん相談者から得られたフィードバックの内容を協議会で報告し、他施設と情報共有
- 都道府県拠点病院が実施する相談支援に携わる者を対象とした研修の受講

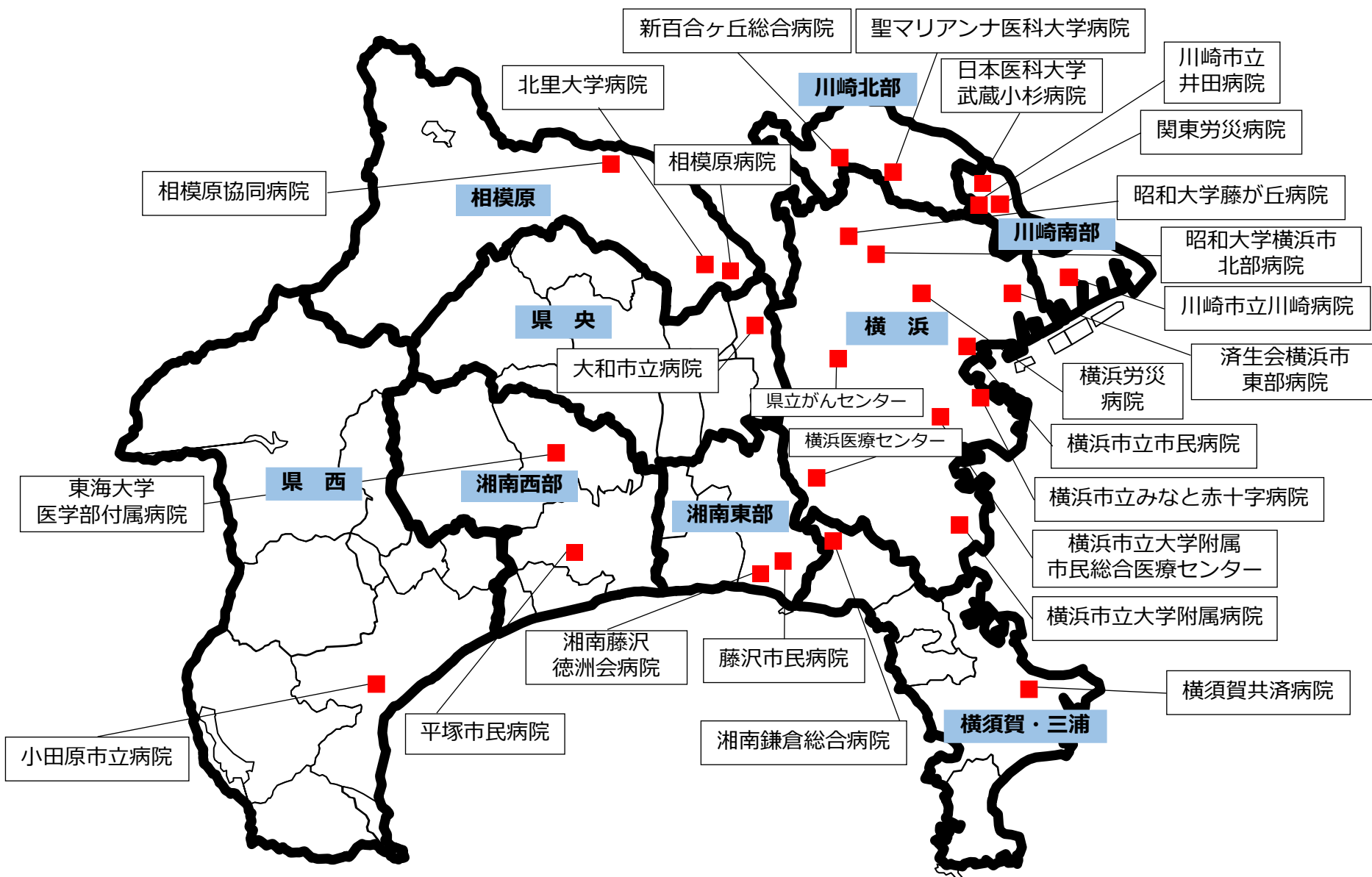
6 臨床研究及び調査研究

- 治験を含む医薬品等の臨床研究を行う場合、臨床研究コーディネーターを配置
- 国立がん研究センターとの連携体制等

7 医療の質の改善の取組及び安全管理

- 医療法等に基づく医療安全に係る適切な体制の確保
- 日本医療機能評価機構の審査等の第三者による評価を受けている。

① 新規指定の申請状況について



都道府県がん診療連携拠点病院
(県立がんセンター)

地域がん診療連携拠点病院
(22病院)

- ① 川崎南部
日本医科大学武蔵小杉病院
- ② 相模原
相模原病院
- ③ 湘南東部
湘南藤沢徳洲会病院
- ④ 湘南西部
平塚市民病院

① 新規指定の申請状況について

医療圏	病院名	所在地	病床数	診療実績 (%)
川崎南部	日本医科大学武蔵小杉病院	川崎市中原区小杉町1-383	372	9.0
相模原	独立行政法人国立病院機構 相模原病院	相模原市南区桜台18-1	458	10.0
湘南東部	医療法人徳洲会 湘南藤沢徳洲会病院	藤沢市辻堂神台1-5-1	419	10.0
湘南西部	平塚市民病院	平塚市南原1-19-1	416	12.0

● 同一医療圏の複数指定に対する国の考え方

いずれの医療圏にも、すでに拠点病院として指定されている病院があるが、同一医療圏における複数指定に対する国の考え方として、次のとおり定められている。（がん診療連携拠点病院等の整備に関する指針）

（１）アまたはイを概ね満たすこと。なお、同一医療圏に複数の地域拠点病院を指定する場合は、アの項目を全て満たすこと。

ア 以下の項目をそれぞれ満たすこと。

- | | |
|-------------------------------|------------|
| ① 院内がん登録数（入院、外来は問わない自施設初回治療分） | 年間500件以上 |
| ② 悪性腫瘍の手術件数 | 年間400件以上 |
| ③ がんに係る薬物療法のべ患者数 | 年間1,000人以上 |
| ④ 放射線治療のべ患者数 | 年間200人以上 |
| ⑤ 緩和ケアチームの新規介入患者数 | 年間50人以上 |

イ 当該がん医療圏に居住するがん患者のうち、２割程度（18%以上）について診療実績があること。

（２）都道府県からの推薦意見を踏まえ、厚生労働省「がん診療連携拠点病院の指定に関する検討会」にて検討する。

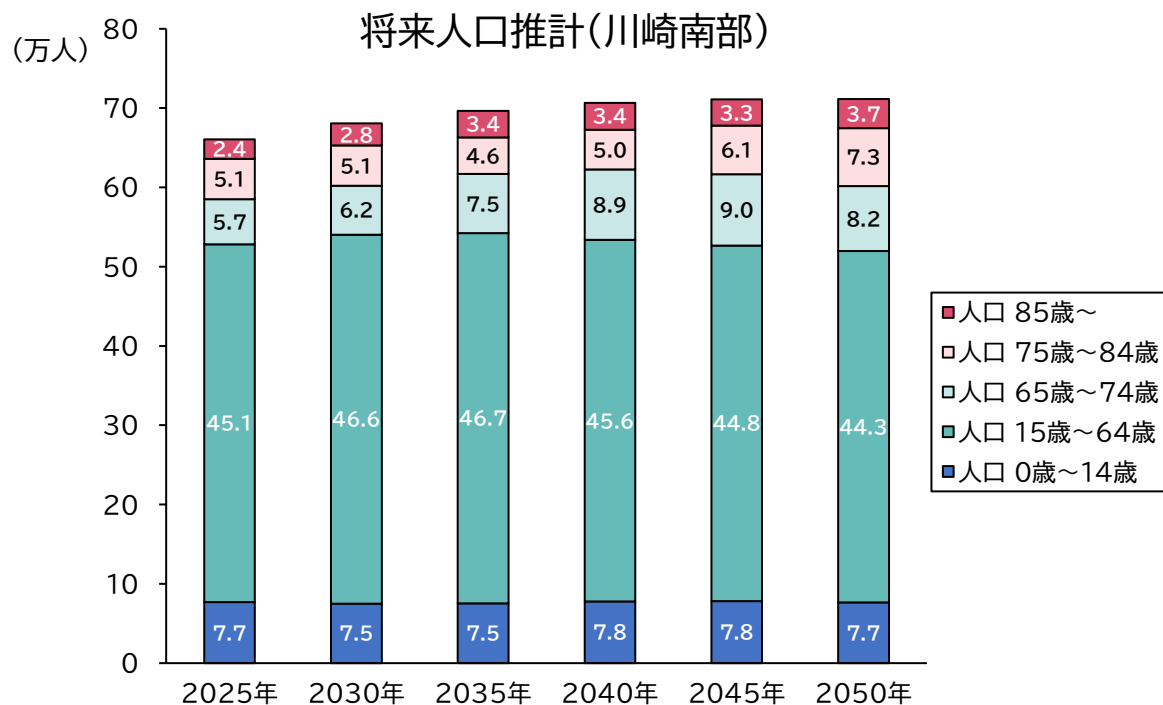
- ① **がん診療連携拠点病院の指定状況について**
- ② **新規指定に係る国への推薦意見について**

② 新規指定に係る国への推薦意見について

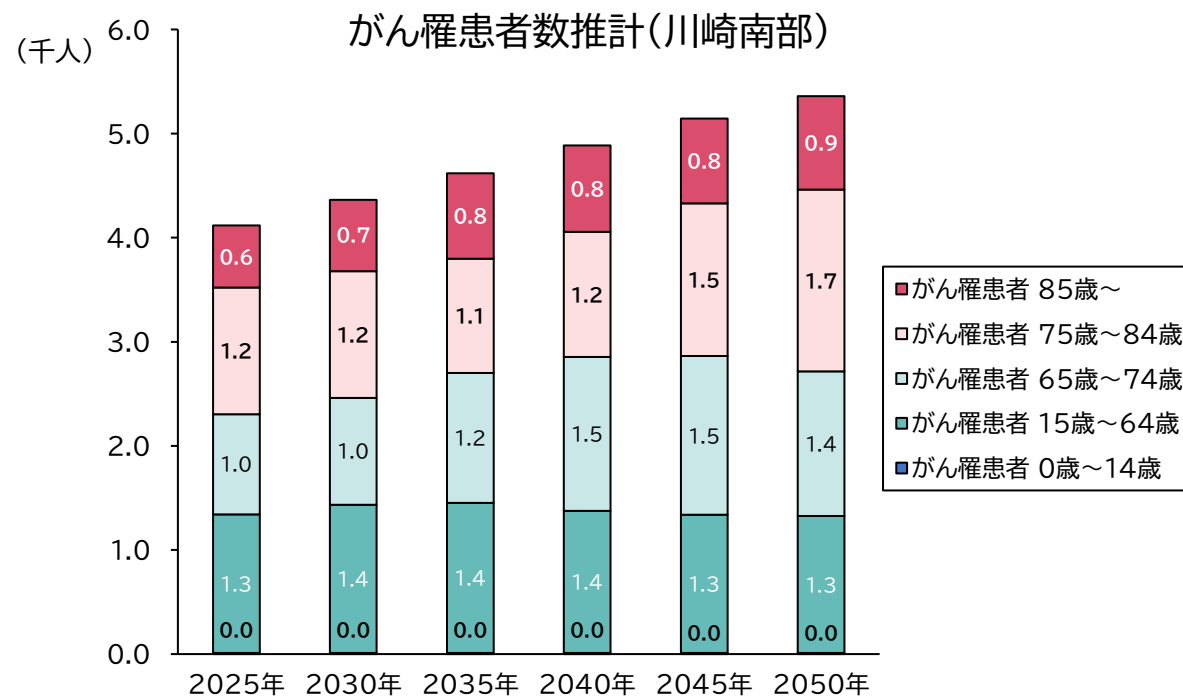
● 日本医科大学武蔵小杉病院

川崎南部医療圏

- ・川崎南部医療圏の人口は、673,721人（令和7年1月1日現在）で神奈川県人口の7.30%を占め、県内では6番目に人口の多い医療圏である。
- ・同病院は川崎南部医療圏の北西に位置し、同医療圏には地域がん診療連携拠点病院として川崎市立井田病院、関東労災病院、川崎市立川崎病院が指定されている。



将来推計人口では、2050年まで一貫して増加し、総人口に占める75歳以上の割合が増加傾向にある。

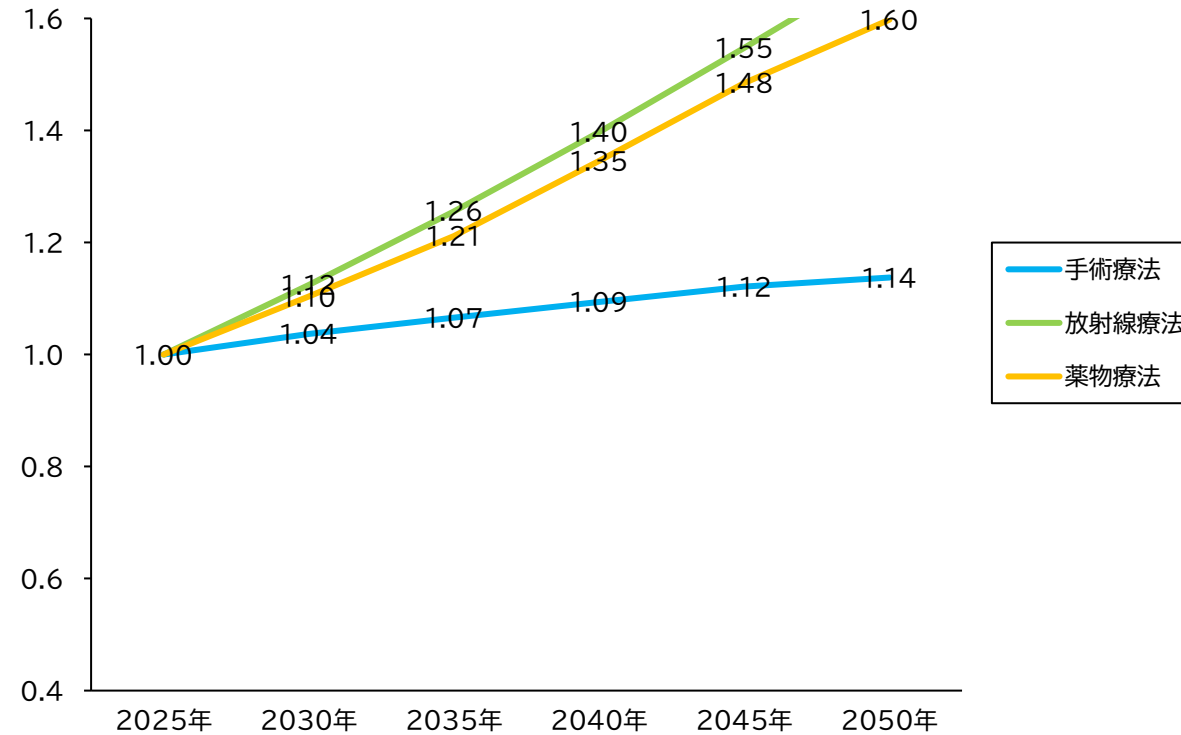


がん罹患患者数推計では、2050年まで一貫して増加し、総罹患患者数に占める75歳以上の割合が増加傾向にある。

② 新規指定に係る国への推薦意見について

● 日本医科大学武蔵小杉病院

新規診断時の三大療法の需要推計(川崎南部)



新規診断時の三大療法の需要推計では、2050年まで全てが一貫して増加し、放射線療法の増加率が最も高い。

② 新規指定に係る国への推薦意見について

● 日本医科大学武蔵小杉病院

手術療法

- ・ 2024年の悪性腫瘍に対する手術件数は573件であり、そのうちロボット支援手術は149件（26%）。 ※（ ）内はロボット手術件数
- ・ 悪性腫瘍に対する手術を実施している診療科の数は10であり、なかでも消化器外科、乳腺外科の件数が多い。2024年の実績は次のとおり。
〔食道がん：22件（6件）、胃がん：43件（11件）、肝臓がん：22件（19件）、膵臓がん：52件（17件）、大腸がん：135件（43件）〕
- ・ 十分な実績と経験があることはもとより、ロボット支援手術や腹腔鏡手術など低侵襲手術の導入により、病状の進行に対応して、適切な術式を選択することが可能。

放射線療法

- ・ 2021年に放射線治療部門を新設し、IMRT（強度変調放射線治療）対応の放射線治療装置の設置、専門医師、放射線物理士を配置。
- ・ 治療実績について、2024年度は206件であった。

薬物療法

- ・ 他の拠点病院でも腫瘍内科（がん薬物療法専門医）が主に担当していることのない、乳がん、婦人科がん、皮膚がん、泌尿器がん、骨軟部腫瘍を担っている。
- ・ 希少がんを専門にしており、卵巣顆粒膜細胞腫、乳腺葉状腫瘍、骨軟部腫瘍、神経内分泌癌などの治療に積極的に取り組んでいる。卵巣顆粒膜細胞腫は、神奈川県拠点病院でも治療不可能と言われた症例も担当している。
- ・ 抗がん薬の脱感作療法について、本県では唯一の専門施設であり、抗がん薬の脱感作療法の依頼が他の拠点病院から、また全国の拠点病院より紹介されている。
- ・ 外来化学療法にも積極的に取り組んでいる。約9割を外来で施行しており、全国でもトップレベルの施行割合。実績（2024年度：のべ4421件）として、川崎市以外の近隣医療圏からも多くの患者を受け入れている。

② 新規指定に係る国への推薦意見について

● 日本医科大学武蔵小杉病院

がん患者支援プログラムの提供

- ・がん患者支援プログラムを積極的に提供しており、がん患者を対象としたがんサロンや、患者、地域医療者を対象とした勉強会などを2012年より開催している。2025年6～10月のがん患者サロン出席者数は、6月24名、7月17名、9月18名、10月27名であった。
- ・患者支援プログラムとして、ACP（アドバンスド・ケア・プランニング）チームをつくり、がん患者のQOLを重点においたがん患者と地域をつなぐチームとして、積極的に取り組んでいる。

病院へのアクセスの良さ

- ・JR、私鉄を合わせて主要5路線、乗り入れ路線を含めると21路線（東京メトロ副都心線、南北線、西武池袋線、東武東上線、相鉄線、都営三田線等）が利用でき、関東各地からのアクセスが良い。また、駅から徒歩5分というアクセスの良さも患者の負担軽減につながっている。

他の拠点病院及び地域の医療機関との連携体制

- ・手術、薬物療法に関しては、専門とする分野、他院での専門とする分野について情報共有し、互いに紹介している。放射線治療に関しては、放射線治療機器の修理や更新の際に、拠点病院間での連携をし、患者に不利益がないよう対応している。
- ・地域のクリニックや在宅医療機関と連携し、がん患者の紹介、逆紹介をしている。2024年度のがん診療の紹介患者数は799件、2025年度上半期は429件であり、昨年度より増加傾向にある。

同病院が地域がん診療連携拠点病院になることの効果

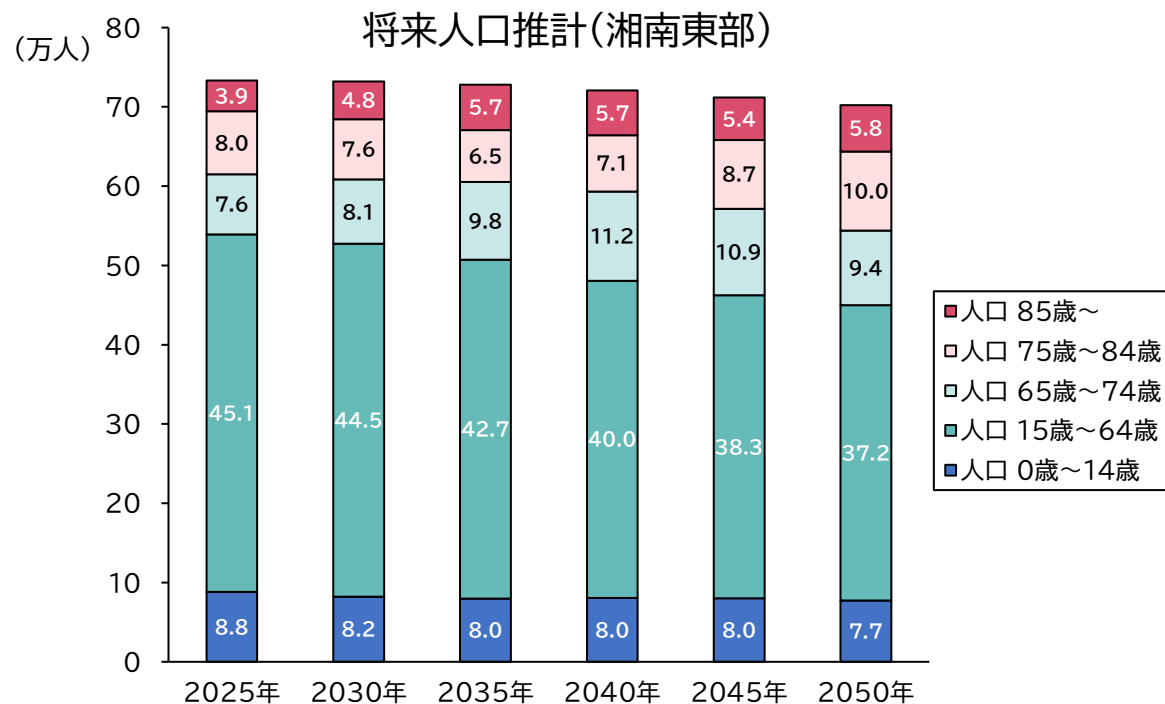
- ・同病院は、川崎北部医療圏の高津区及び宮前区と隣接し、2024年がん登録では、全体数1493人のうち、高津区206人（13.8%）、宮前区61人（4.1%）であった。今後、拠点病院になることで属する医療圏はもとより、他の医療圏とも連携しつつ質の高いがん医療が期待できる。

② 新規指定に係る国への推薦意見について

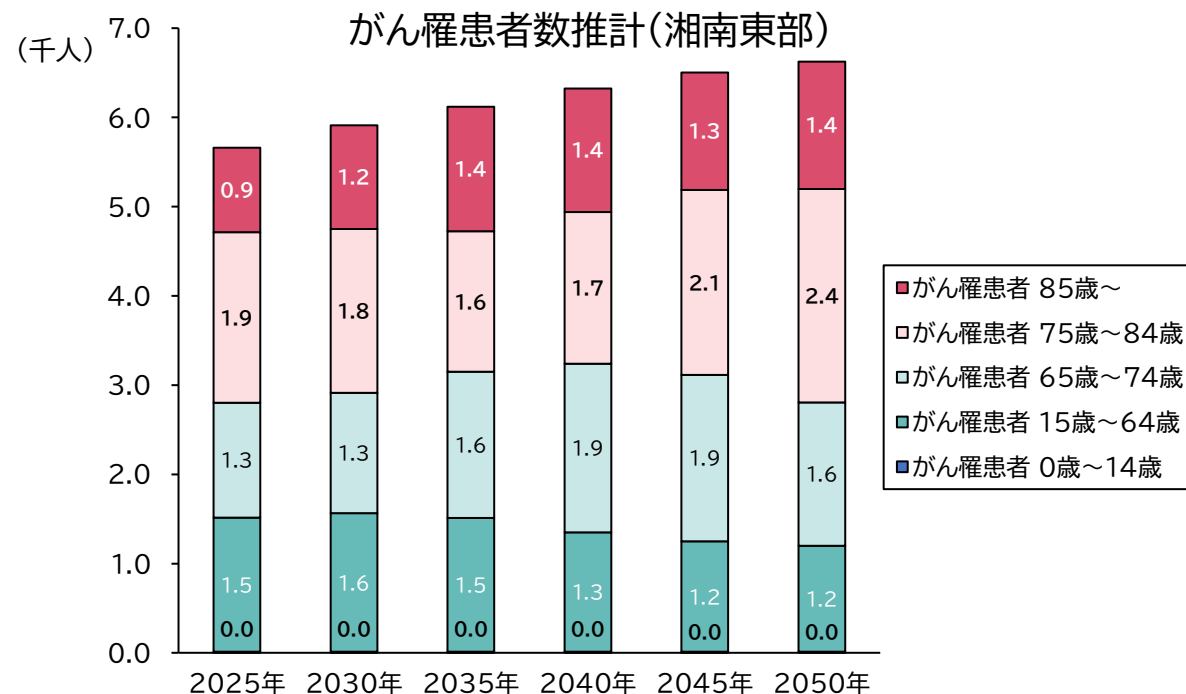
● 湘南藤沢徳洲会病院

湘南東部医療圏

- ・ 湘南東部医療圏の人口は、737,474人（令和7年1月1日現在）で神奈川県人口の7.99%を占め、県内では4番目に人口の多い医療圏である。
- ・ 同病院は湘南東部医療圏の南東に位置し、同医療圏には地域がん診療連携拠点病院として藤沢市民病院が指定されている。



将来人口推計では、2050年まで一貫して減少し、総人口に占める75歳以上の割合が増加傾向にある。

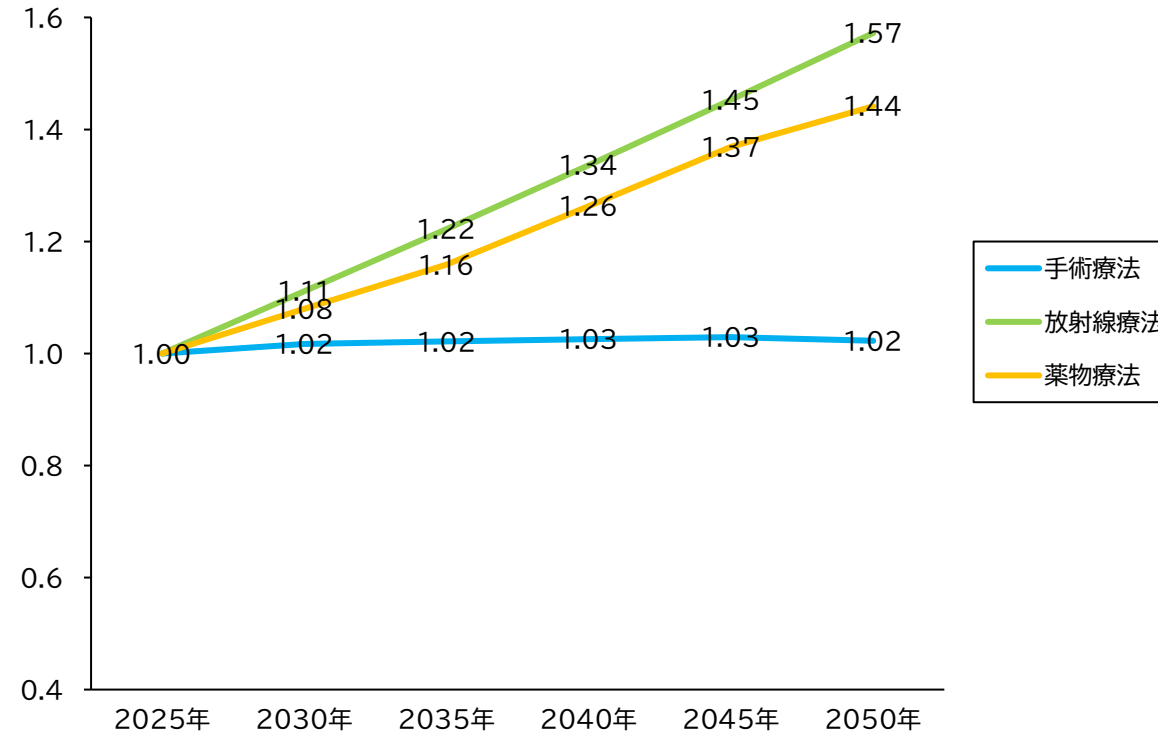


がん罹患患者数推計では、2050年まで一貫して増加し、総罹患患者数に占める75歳以上の割合が増加傾向にある。

② 新規指定に係る国への推薦意見について

● 湘南藤沢徳洲会病院

新規診断時の三大療法の需要推計(湘南東部)



新規診断時の三大療法の需要推計では、2050年まで手術療法を除き一貫して増加し、放射線療法の増加率が特に高い。

② 新規指定に係る国への推薦意見について

● 湘南藤沢徳洲会病院

手術療法

- ・今後も増加傾向が続く胃がん、大腸がん、肝がん、前立腺がん等に関して、藤沢市民病院と同等の治療実績を有している。（2024年：胃がん38件、大腸がん97件、肝がん13件、前立腺がん50件、乳がん81件、肺がん26件）

放射線療法

- ・放射線治療件数の10%が湘南西部医療圏からの患者であり、医療圏外からの患者も多い。（2023年度：577件のうち57件）
- ・放射線治療専門医は2名、うち乳がんの放射線治療専門の女性医師1名が在籍。
- ・治療効果と安全性が担保されつつ、外来かつ照射回数が5回と短期間で済む定位照射(SBRT)を積極的に実施。

薬物療法

- ・外来化学療法室は、2025年1月より23床から30床へと拡充し、より多くの患者に対応できる体制を整備するとともに、専門性の高い医療スタッフが連携しながら質の高いがん治療を提供。
- ・スタッフステーションでは、医師・看護師・薬剤師・管理栄養士など多職種が集まり、カンファレンスを行える体制を整備。

集学的治療

- ・肝胆膵・消化器病センターを整備している特徴として、集学的治療を要する肝細胞がんは、県下有数（同医療圏内では最多）の症例数を有する。（2024年：手術13件、経皮的肝動脈化学塞栓療法47件、複合免疫療法（薬物療法）15件）

② 新規指定に係る国への推薦意見について

● 湘南藤沢徳洲会病院

国際化に伴うがん治療体制

- ・近年の外国人患者の増加に対応するため、2016年に国際医療支援室を設置。常勤専従の5ヶ国言語対応可能な医療通訳5名を配置。医療通訳はコーディネーターも担っており、それぞれ英語、中国語、スペイン語、ポルトガル語、ベトナム語に対応。
- ・JMIP(外国人患者受け入れ医療機関認証制度)認証医療機関として外国人患者を積極的に受け入れており、2022年度は入院・外来合わせて2,368名（うちがん患者6名）、2023年度4,944名（うちがん患者17名）、2024年度は4,829名（うちがん患者10名）の外国人患者に対応し、月平均約400人の外国人患者を診療。
- ・藤沢市には2023年6月で7,593人、2025年9月で8,957人の外国人が居住し、また患者は同医療圏のほか、横須賀、厚木、座間からも来院している。

病理診断の充実

- ・病理専門医と細胞診専門医の両方の資格を持つ常勤医が3名在籍。
- ・院内にとどまらず院外においても、13の医療機関と連携しながら診断を行っており、院外受託実績は年々増加傾向。二次医療圏を含む広い範囲で病理医不足問題をカバーしている。
（組織診断 2023年：3,925件、2024年：4,678件）（細胞診 2023年：0件、2024年：464件）（迅速組織 2023年：13件、2024年：15件）
（剖検 2023年：1件、2024年：3件）

病院へのアクセスの良さ

- ・神奈川県西部より東京に向かう国道1号線沿いにあり、東名高速道路へのアクセス道路である新湘南バイパス出入口に近接。
- ・JR東海道線辻堂駅から徒歩7分の徒歩圏に位置し、公共交通および自動車を含め交通利便性が非常に高く、病院近郊のみならず、伊豆～県西からの受診者もいる。
- ・病院独自に地域シャトルバスが周辺地域で運行されており、自転車や自家用車を有しない移動の困難な住民にとって利便性が高い。

② 新規指定に係る国への推薦意見について

● 湘南藤沢徳洲会病院

他の拠点病院及び地域の医療機関との連携体制

- ・ 2024年の院内がん登録患者の同医療圏内での内訳は、藤沢市在住の患者は44.66%、茅ヶ崎市と寒川町在住患者の合計が40.39%で、過半数弱の患者が、医療圏内でも西側に居住している。
- ・ 藤沢市の166施設(クリニック)が連携登録施設となっており、藤沢市民病院は317施設(クリニック)となっている。一方、茅ヶ崎市と寒川町の92施設（クリニック）が湘南藤沢徳洲会病院の連携登録施設となっており、藤沢市民病院の同地域における連携登録施設は21施設であり、役割分担ができています。
- ・ 通院の負担軽減を図るため、茅ヶ崎市と寒川町へのシャトルバスを運行。同医療圏内でも茅ヶ崎市在住のがん患者を積極的に受け入れており、藤沢市民病院とは立地条件的に役割分担ができています。

同病院が地域がん診療連携拠点病院になることの効果

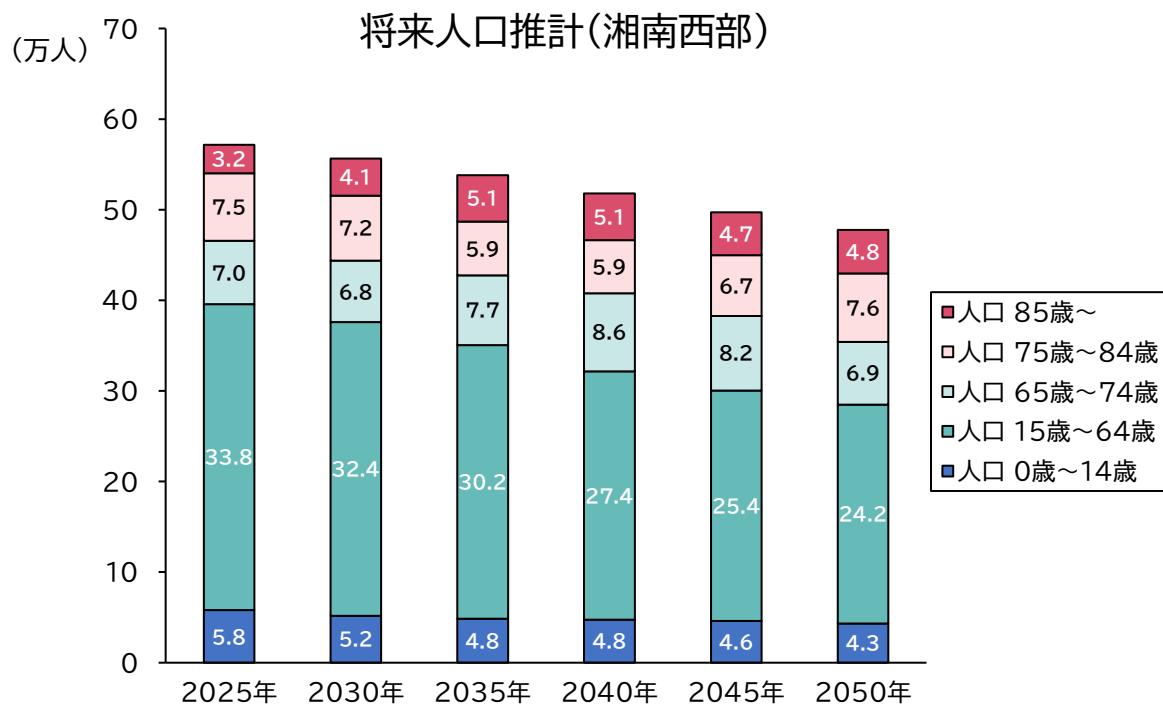
- ・ 湘南東部医療圏には、既指定の拠点病院である藤沢市民病院があるが、湘南藤沢徳洲会病院が拠点病院となることで、更なる連携を図ることができる。また、隣接する医療圏の拠点病院との連携協力体制にも一層注力できることから、医療資源の不足解消や、より質の高い医療提供が期待できる。

② 新規指定に係る国への推薦意見について

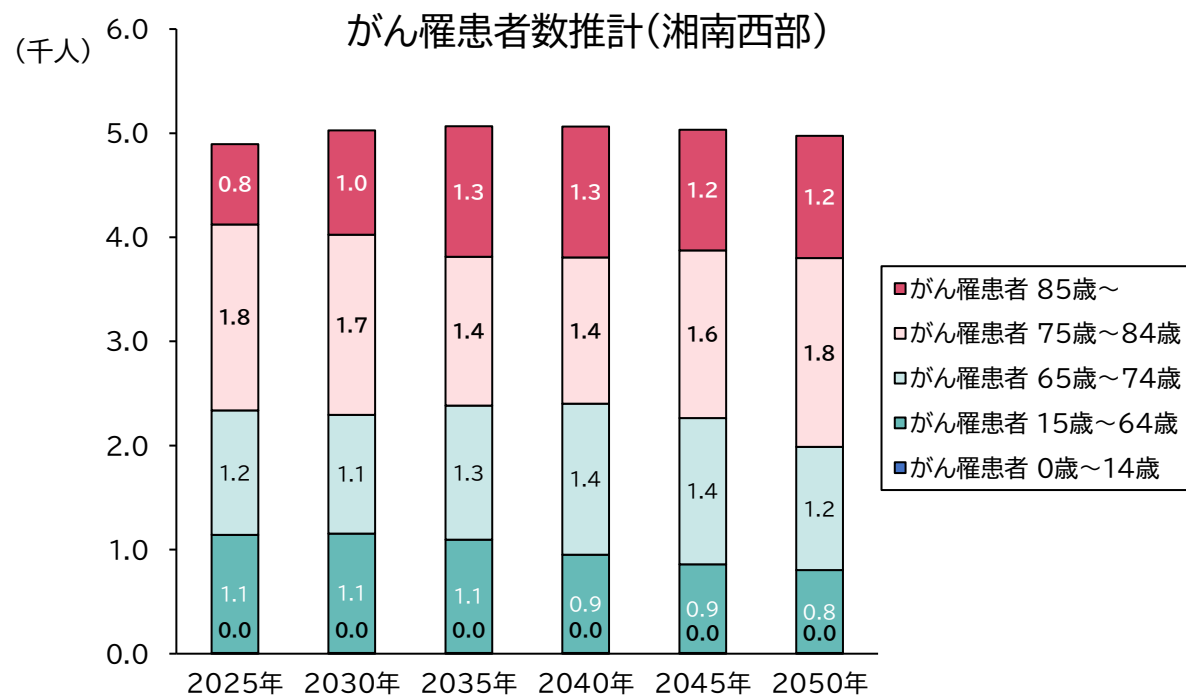
● 平塚市民病院

湘南西部医療圏

- ・ 湘南西部医療圏の人口は、577,227人（令和7年1月1日現在）で神奈川県人口の6.26%を占め、県内では8番目に人口の多い医療圏である。
- ・ 同病院は湘南西部医療圏の中央南に位置し、同医療圏には地域がん診療連携拠点病院として東海大学医学部附属病院が指定されている。



将来推計人口では、2050年まで一貫して減少し、総人口に占める75歳以上の割合が増加傾向にある。

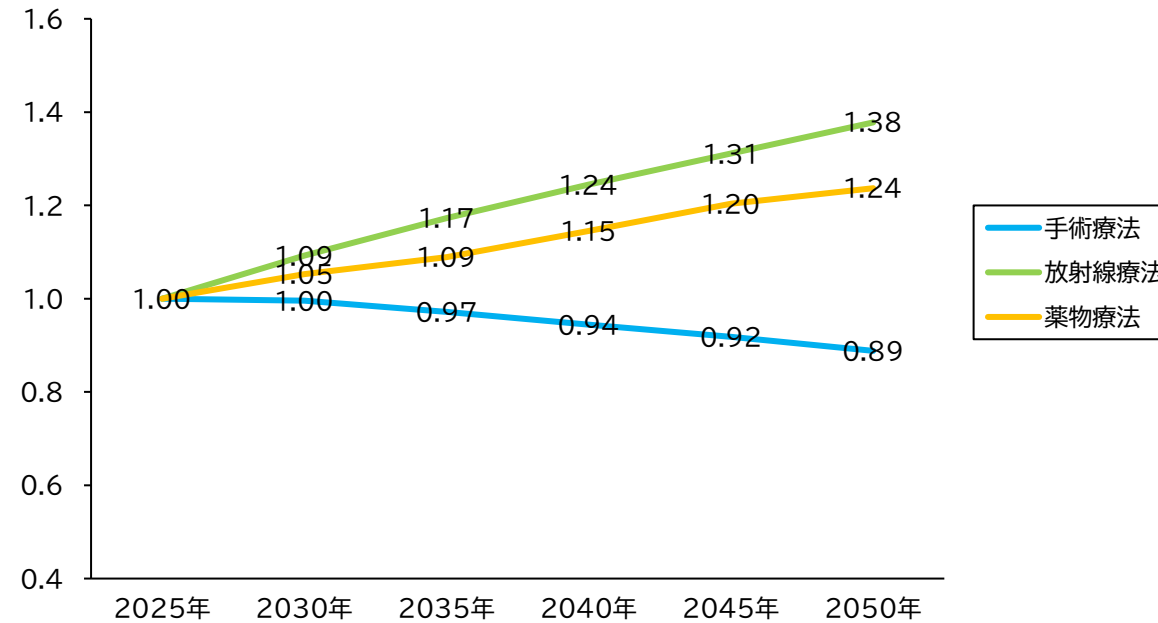


がん罹患者数推計では、2040年をピークに減少し、総罹患者数に占める75歳以上の割合が増加傾向にある。

② 新規指定に係る国への推薦意見について

● 平塚市民病院

新規診断時の三大療法の需要推計(湘南西部)



新規診断時の三大療法の需要推計では、2050年まで手術療法が一貫して減少。一方、放射線療法及び薬物療法が一貫して増加し、放射線療法の増加率が特に高い。

② 新規指定に係る国への推薦意見について

● 平塚市民病院

手術療法

- ・2023年度DPCデータによる平塚市・中郡エリアの急性期病院における「悪性腫瘍・手術あり（MDC 6 分類）」症例は全体で1,335件あり、そのうち同病院は783件（58.7%）を担っている。
- ・外科においては、勤務環境の整備により特に消化器外科医、女性外科医が常勤で多数在籍しているほか、日本専門医機構によって認定された外科領域専門研修プログラムを有する基幹施設として、専門医の育成に努めており、2040年に向けても安定して人材を確保し手術を実施できる環境となっている。

放射線療法

- ・放射線治療専門医が3名常勤で在籍しており、日本放射線腫瘍学会（JASTRO）の認定施設となっている。
- ・強度変調回転照射（VMAT）や定位放射線治療（SRT）、深吸気息止め照射（DIBH）などの高精度、低侵襲照射を実施し、照射患者数は年間200人を超えていることから、高度で安定した治療が提供できる体制にある。

薬物療法

- ・日々進歩する分子標的薬や免疫チェックポイント阻害薬による治療は多職種が連携し、入院だけでなく外来でも安全に数多く実施している。
- ・令和6年に実施した注射による化学療法の延べ件数は合計3,478件あり、そのうち3,062件（88.0%）を外来で実施。外来化学療法を積極的に取組むことで、患者の経済的負担を軽減し、生活の質の維持に配慮している。

② 新規指定に係る国への推薦意見について

● 平塚市民病院

病院へのアクセス

- ・平塚市民病院の入院患者の地域別割合は、平塚市と中郡に居住している患者が88%であるのに対し、伊勢原市と秦野市に居住している患者は4%に留まっていることから、南北方向のアクセスに制約があることが分かる。
- ・伊勢原市に東海大学医学部付属病院があるが、患者の主な移動手段である電車と自家用車の利用に鑑みると、同医療圏内で南北をつなぐ鉄道や幹線道路がなく、アクセスが悪い。一方、平塚市は東海道線と国道1号線、伊勢原市は小田急線と国道246号線のように、東西の動線は充実している。

他の拠点病院との連携とがん診療の取組

- ・既指定の拠点病院である東海大学医学部付属病院は大学病院の本院であるため、学術、研究に対する協力や希少がんなどに対する高度な専門治療については、十分に連携が図られている。
- ・がん診療に対する充実を図るため、令和7年（2025年）12月に22床の緩和ケア病棟を設置する予定で病棟の改修を進めている。患者・家族の多様なニーズに応えるため、医師・看護師のみならず、薬剤師、心理士、ソーシャルワーカー、リハビリ技師など多職種が連携し、質の高い全人的ケアを実践していく。

同病院が地域がん診療連携拠点病院になることの効果

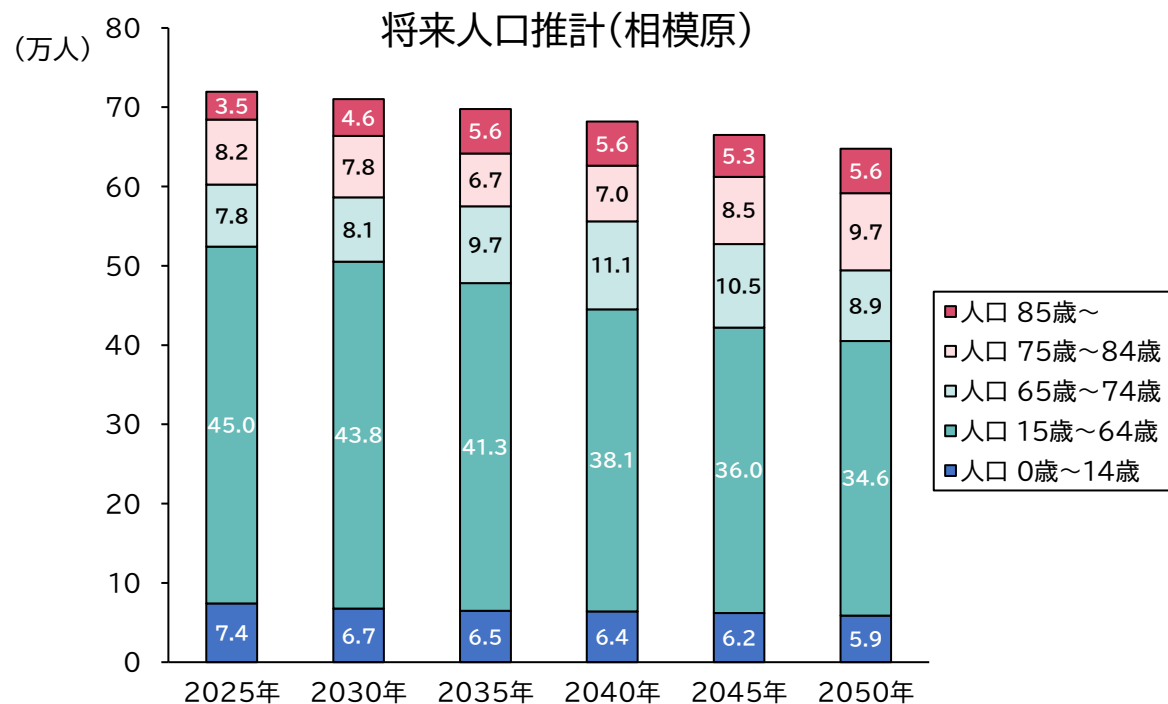
- ・湘南西部医療圏には、既指定の拠点病院である東海大学医学部付属病院があるが、同医療圏の特徴として南北のアクセスに制約があるため、南側エリアに設置することで、生活圏から拠点病院へのアクセスが向上すると考えられる。
- ・平塚市民病院は、これまでの実績に加え、更にがん診療提供体制の充実を図る方向性にあるため、拠点病院として指定されることで、同医療圏におけるがん医療提供体制の質の向上が期待できる。

② 新規指定に係る国への推薦意見について

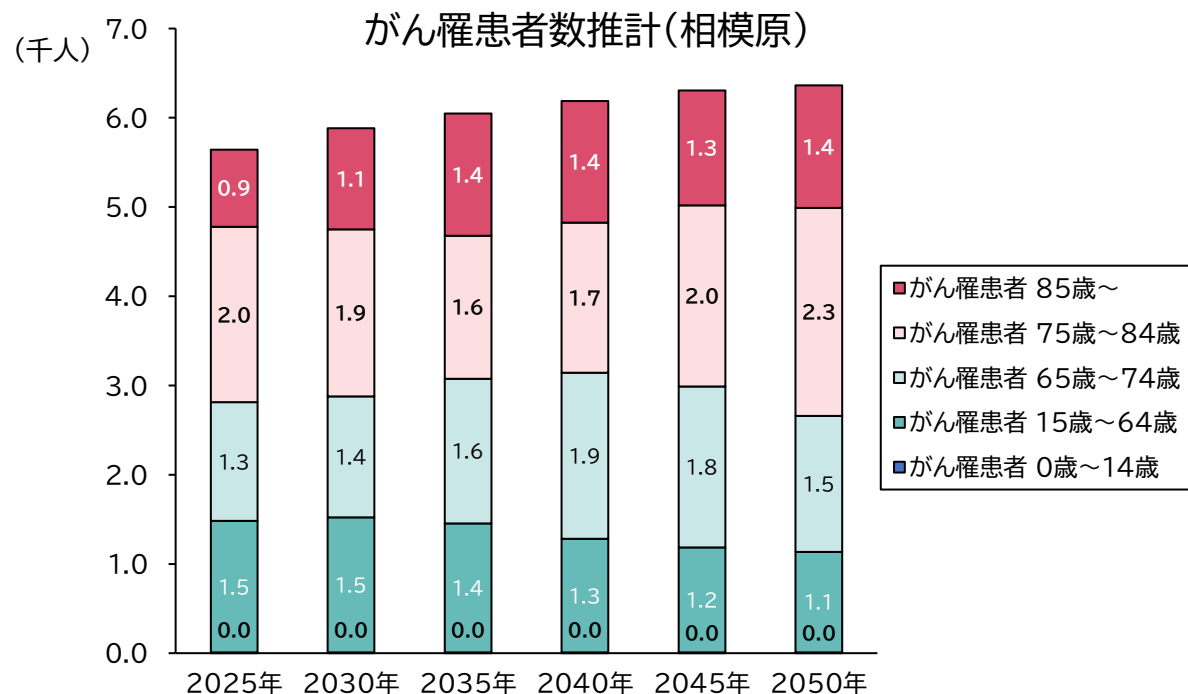
● 相模原病院

相模原医療圏

- ・ 相模原医療圏の人口は、723,407人（令和7年1月1日現在）で神奈川県人口の7.85%を占め、県内では5番目に人口の多い医療圏である。
- ・ 同病院は相模原医療圏の南東に位置し、同医療圏には地域がん診療連携拠点病院として北里大学病院、相模原協同病院が指定されている。



将来推計人口では、2050年まで一貫して減少し、総人口に占める75歳以上の割合が増加傾向にある。

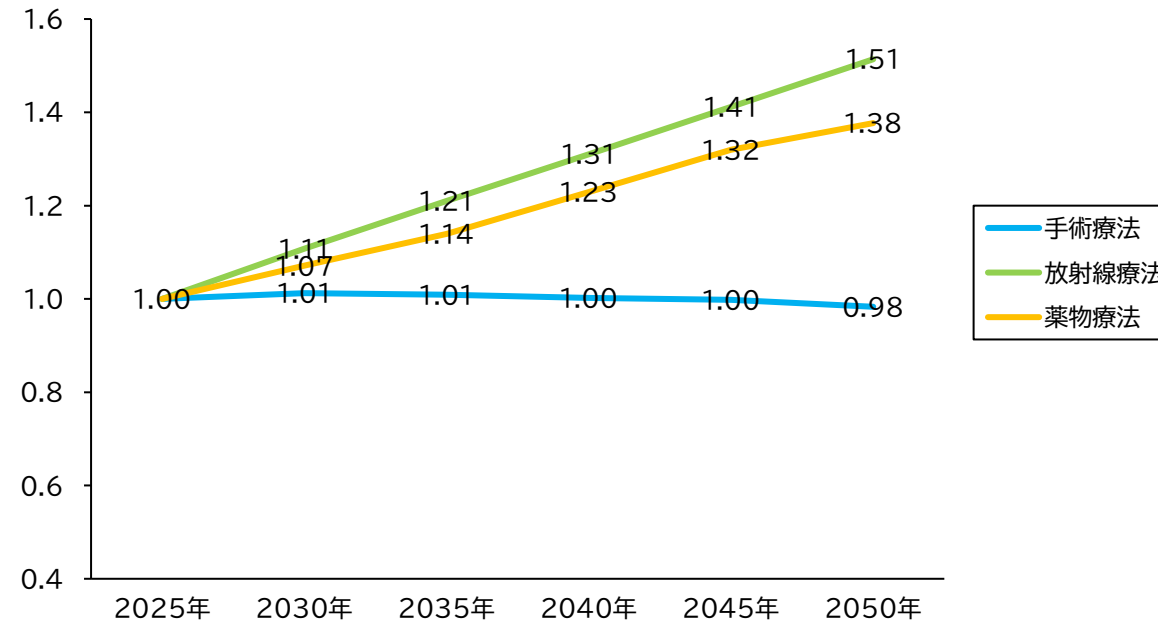


がん罹患患者数推計では、2050年まで一貫して増加し、総罹患患者数に占める75歳以上の割合が増加傾向にある。

② 新規指定に係る国への推薦意見について

● 相模原病院

新規診断時の三大療法の需要推計(相模原)



新規診断時の三大療法の需要推計では、2050年まで手術療法を除き一貫して増加し、放射線療法の増加率が特に高い。

② 新規指定に係る国への推薦意見について

● 相模原病院

同病院は、以下の必須要件を除き、その他の要件は充足している。

指定要件未充足内容	実績
がんに係る薬物療法のべ患者数（基準：年間1,000人以上） ※期間：令和6年1月1日～令和6年12月31日	655人

以上、4病院の推薦についてご議論いただきたい。